

1993年(平成5年)12月18日

士翼曰

福井の
古建築あれこれ

〈3〉

高棕家表門



（かりくなつてひご）（福井士大・吉田純一）
古風なたすまいを現せる豪傑索表門。福井震災で
二階部分が大きな被害を受けたため、一階建てに改
築されたという　　上坂郡丸岡町野中山王寺

（明治四年の難局で、吉田助氏が金九両而分を
現状はみての通り。上層部
がなく、一時しかない。当
時も上層部は少し改變され
ていたというが、今度はす
かりなくなつていて、こ
（福井正夫・吉田純一）

丸岡から主要地方道の勝山・丸岡線を勝山へ向かい、久米田の手前で左に折り返して少し行くと、野中山主に着く。ここ北西寄ののはずれにある高橋節夫家の表門は、丸岡城の不明門（あかずのもん）を移したものと伝わっている。不明門とは、天守がたつている丘の北寄の東側にあつて重鎮の

門である。高柳家の表門を発見したのは城郭研究の第一人者、故城戸久博士であった。昭和十三年のことだから、かれこれ五十年以上も前である。同博士によると、「どう。」
棟瓦葺、重層楼門」で、板、懸魚等細部總て天守の手法と全く一致する」とい

丸岡城の元不^ミ明門

上層部失つたが
武骨で風格漂う

も天守が見えるはるか遠く
の小高い丘を、静かに見つ
めている。

「棟瓦葺、重層樓門」で、
「鬼板及び大棟は福井石
を用ひ、門扉金具、破風
板、懸魚等細部總て天守の
手法と全く一致する」とい
う。

だ丸岡城の門であった看りがパンプンにおってい
る。

波形の瓦（かわら＝棲瓦）を葺（ふ）いた二階建で（重層）の門、さらに「屋根の端の鬼瓦（鬼板）」や「つばんの棟（大棟）」は笏谷石（福井石）製であり、葺の金具や屋根の両側が同じで、いかにも武骨で、城門らしい風格がある。元の姿より低くな